

おわりに

「研究せや2016」をお読みいただき、ありがとうございました。

今年度のテーマを「自立に向けた学習内容の共有化」と設定し、学部学年、あるいは各グループで、1年をかけ丁寧に研究を重ねながらまとめて参りました。本校の最大のミッションである児童生徒の「自立と社会参加」の実現に向け、学校の最前線に立ち、一生懸命児童生徒と向き合う教員が、日々の教育活動を通じて、肌で感じることで、また、児童生徒から学ぶこと等を1冊の実践報告書としてまとめてみましたが、いかがだったでしょうか。

子どもたちを取り巻く社会環境の急速な変化とともに、子どもたちの学習ニーズがますます多様化する中、学校には、より児童生徒一人ひとりの実態や学習ニーズに応じた柔軟な教育が求められるようになりました。高校においては、昨今の生徒の実情に応じ、従来の「教師主導型」の授業から「生徒主体型」の授業へと学習スタイルが根本的に変わりつつあります。先生の「トークとチョーク」によって知識を得るのではなく、生徒が主体となり、グループディスカッションやディベートなどの対話的活動等を通じ、ものごとの本質を深く考え、様々な課題を解決していく学習方法、いわゆるアクティブラーニングが盛んに実践されています。受身になるのではなく、自らが学習への探究心をもち「主体」となって学習に取り組むことで、学習意欲が向上し、課題解決能力や論理的思考力等を習得する上で学習効果が非常に高いと日々研究が進んでいます。

特別支援学校においても同様に、多様化する児童生徒の学習ニーズに対応したよりきめ細やかな指導を充実させていくことが求められる中、本校でも、個別の教育計画に基づき、児童生徒一人ひとりの実態や学習ニーズに応えるべく、様々な教材教具を用いての授業を展開していますが、常により良い授業を目指し、組織的な授業研究・改善を進めています。その中で「自立に向けた学習内容の共有」「主体的な学び」は、児童生徒の自立と社会参加をめざす上で、大きなテーマであり、自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な力を培うために欠かせない要素だと思います。主体的な学びを積み重ねることによって、知的好奇心や学習意欲が芽生え、自ら考えることによって「自立心」が生まれ「生きる力」が育成されていくものと確信しております。

私たちは、今回の研究を通じ「自立に向けた学習内容を共有する」ことで、小学部・中学部・高等部それぞれのステージで、どのような学習活動を行えばより効果的なのか、また、どのようにしたら小中高の一貫性が確立されるのか等々、今後、本校がめざすべき教育の方向性や、特別支援学校そのものの在り方について、大きなヒントを得ることができました。いよいよ来年度より3校の神奈川県立高等学校でインクルーシブ教育がスタートする中、すべての子どもが同じ場所で共に学び、共に育つ共生社会の実現をめざしたインクルーシブ教育の推進に向け、今後も、センター的機能としての役割を果たしつつ、熱心に研究を進めて参りたいと思います。

最後になりましたが、本研究にあたりまして、温かいご指導やご助言をいただきましたすべての関係者の皆さまに、心より厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成29年3月  
副校長 石倉隆之